

平成 23 年 12 月 7 日

「かーちゃんのか・プロジェクト」スタート！

東日本大震災が起きるまで、女性農業者＝「かーちゃん」たちは味噌、しみ餅、お菓子などを作り、農村の暮らしを支え、食文化を守ってきました。「かーちゃん」たちは、避難生活の中で「このままじゃいけない」「もらう支援ではなく、動き出すための支援が欲しい」という思いを募らせています。福島大学小規模自治体研究所では、あぶくま地域復興のために、「かーちゃん」たちの力・知恵・技術を復活・継承する「かーちゃんのか・プロジェクト」を立ち上げました。

震災前まで、地産地消で健康に良いものを食べてもらいたいと故郷の味を守ってきた「かーちゃん」たちは、震災から8カ月たったいま、「生きがい」を奪われ、元気を失い体が動かなくなっています。しかし、「かーちゃん」たちからは、「一步を踏み出させてもらえれば、二歩目からは自分で踏み出せる」「一人ではどうにもならないけどつながれば動き出せる」「かーちゃんが元気でいれば避難しているみんなも元気になる」という声も上がっています。

本プロジェクトは、「かーちゃん」たちが元気になるための支援をして、避難者にふるさとの味を食べてもらい避難者自身が元気になる。それがあぶくま地域の元気・復興の力になる。そんな「かーちゃんのか」を活かした、新しいコミュニティづくり、新しい生産・流通・販売ルートの形成を目的にしています。

まず、あぶくま地域の「かーちゃん」たちが力を合わせ仮設住宅などで正月餅を販売する「結もち・プロジェクト」を実施することになりました。動き出したかーちゃんに中越地震で福島の支援を受けたお礼ということで、新潟県南魚沼市の農家から、支援のもち米なども届くことになりました。

本プロジェクトでは、これから、県内各地に避難している「かーちゃん」たちのネットワークをつくり、「かーちゃん」たちがつくった加工食品や弁当などを販売する「かーちゃんの店」をオープンし、「かーちゃんの店」を拠点にキッチンカーで仮設住宅などにふるさとの味を届け、週末に交替で各地域の味をふるまう「週末かーちゃんレストラン」の開設を目指していきます。

今後も、多くの賛同者を集め、プロジェクトを展開していきたいと思っています。お忙しい中とは思いますが、取材等ご協力をお願い申し上げます。

(お問い合わせ先)

小規模自治体研究所(塩谷研究室): 024-548-8328

コミュニティ茶ロン「あぶくま茶屋」: 024-567-7273



「かーちゃんの力・プロジェクト」

避難している女性農業者「かーちゃん」たちの店をつくり
「かーちゃん」が「キッチンカー」を走らせるプロジェクト始動！



原発事故で避難を余儀なくされた町や村には、女性農業者 = 「かーちゃん」たちが
地域の特産品や加工食品をつくり販売する場がありました。

お店や農家民泊で手料理をもてなす「かーちゃん」もいました。

「かーちゃん」たちは、地元の新鮮な食材にこだわり、健康・体に良いものをと
まごころ込めて作ってきました。

そこは、厳しい自然環境のなかで生きていくための仕事の場であり

地域を元気にする大切な場でもありました。

避難生活では、かーちゃんが持っていた知恵や技術を活かす場がありません。

「かーちゃんの力・プロジェクト」では、

「かーちゃん」たちの力・知恵・技術を活かす場=「かーちゃんの店」を開き、

そこを拠点にキッチンカーを使って各地のイベントに出店したり、仮設住宅へ

「ふるさとの味」弁当の販売などを行い、「かーちゃんの力」で地域を元気にして
地域の復興を目指します。

【プロジェクト・未来構想】

かー（かーちゃんの店）& かー（キッチンカー）
届けます・伝えます・広めます
ふるさとの味

「かーちゃんの店」

避難地域で活躍していた女性農業者の店をオープン。各地域の女性グループが作る加工食品や弁当、地域の達人が作った工芸品などを販売。

「週末かーちゃん

レストラン」

「かーちゃん」の店で、各地域の「かーちゃん」グループなどが交替でシェフになる週末レストランを OPEN

「キッチンカー」

「かーちゃんの店」を拠点にキッチンカーで各地のイベントや販売に出掛けます。仮設住宅にも定期的に入り、「ふるさとの味」弁当なども販売。



～ かーちゃんという言葉から ～

- 「このままじゃ、いけないよね。なにか動き出したいよね。」
- 「もう、もらうだけの支援ではなくて動き出すための支援が欲しい」
- 「一步を踏み出させてもらえれば2歩目からは自分で歩ける」
- 「一人じゃどうにもならないけれど、つながれば動き出せる」
- 「かーちゃんが頑張っていれば避難している地域みんなも元気になる」
- 「体にいいものをつくってきたんだもの。」「あきらめたくない」

プロジェクト・コンセプト

1、あぶくま地域の復興

- かーちゃんが元気に仕事をおこせば、同じ地域の避難してるみんなが元気になる 地域の復興の力になる

2、かーちゃんネットワークづくり

- 「かーちゃん」たちが手を取り合えば、避難生活で困っている問題も一緒に考えて地域みんなのために動き出せる。

3、新しい生産・流通の形成

- 県内・全国みんなのネットワークを広げて顔の見える信頼関係を築き、あたらしい流通・販売ルートをつくる。

4、健康・安心・安全

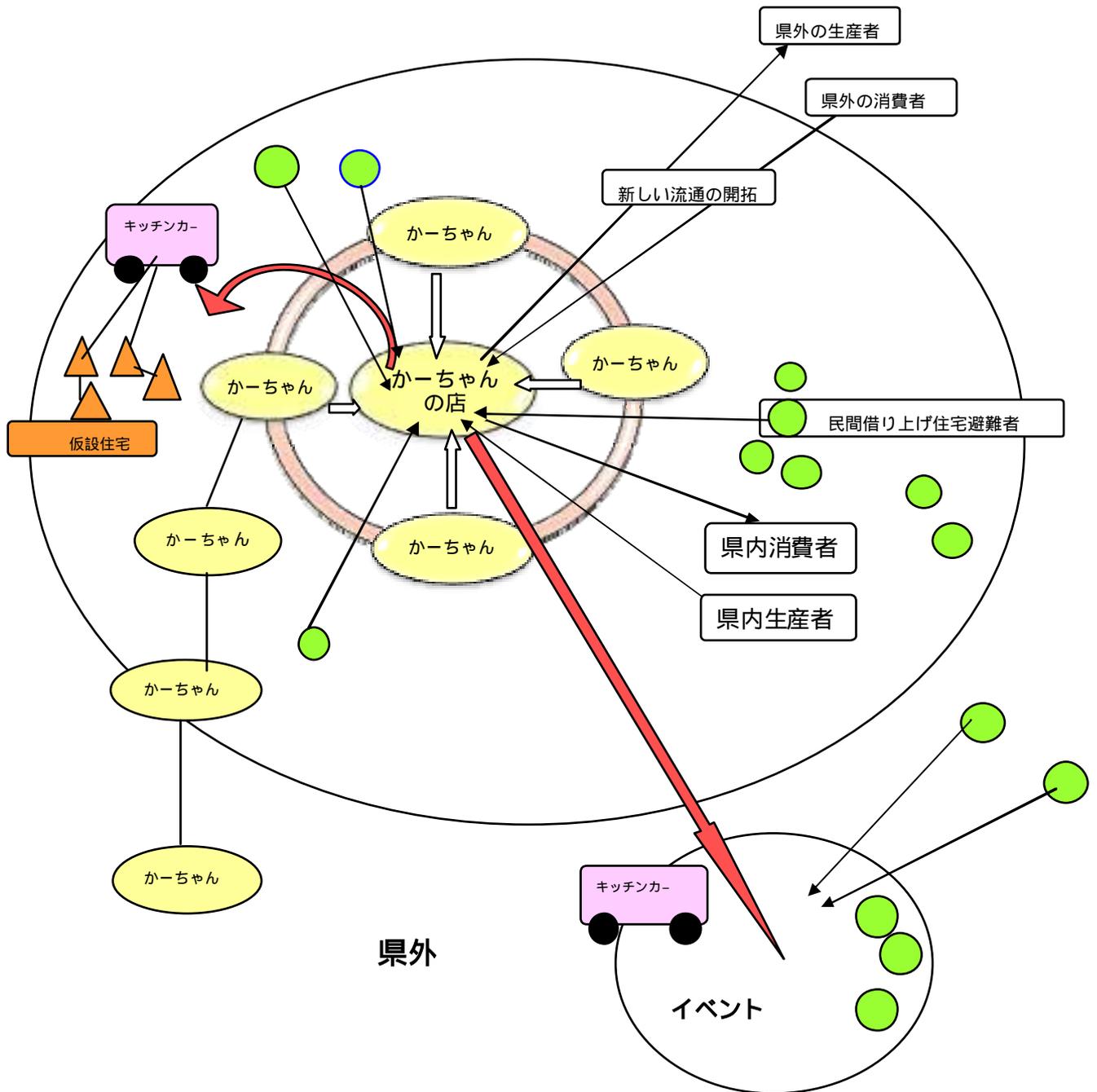
- 農薬、添加物などを控え自然の恵みをいかして体に良いものをつくってきた「かーちゃん」たちだからこそ、「安全・安心」へのこだわりをそのまま大切に。
- 放射性物質検査で独自の安全基準を設定。クリアしたものだけを出します。

5、新しいコミュニティづくり

- 民間借り上げ住宅の避難者、仮設住宅の避難者、避難先の地元住民など、すべての住民が集う場をつくり、新しいコミュニティをつくる。

「かーちゃんのカ・プロジェクト」による

ネットワーク・コミュニティ形成



プロジェクト目標

すぐにははじめられない。まずはあるもの、できるところから

ステップ1（年内）

できることから始める
まずはみんなが参加できる「正月餅」をつくって販売。

ステップ2（年度内）

かーちゃんネットワークの拡大
生産・販売 用意できる厨房用品を使いながら生産・販売
地元地域の方や県内外の生産者・消費者とのネットワークづくり
各地域の達人の掘り出し
伝統の技・知恵、技術を伝える 商品化 販売
出張・料理講座などの開催（技能の伝承）
学ぶ・・・あたらしい流通・販路の開拓方法、
放射能についての正しい知識習得
新しいコミュニティづくり・・・孤立を防ぐ
食品などの放射能・放射線測定のため体制づくり

ステップ3

かーちゃんの店・キッチンカー・週末レストラン

郡山・福島・いわきなどの3都市の中心部に「かーちゃん」の店をオープン

- * 各地域のふるさとの味が味わえるレストランを出店
- * かーちゃんの店では加工食品・お惣菜やお弁当、工芸品を販売
- * 民間借り上げ住宅の避難者たちが集う場
- * アンテナショップの役割

キッチンカーを走らせ、各地のイベントで出店

* かーちゃんの店にキッチンカーを配置し各イベントで 出店・販売
仮設住宅でお惣菜やふるさとの味の弁当を販売

「かーちゃん力」を活かした新しいコミュニティづくり

- * かーちゃんたちのつながりをいかした「みまもり」「声かけ」
生活支援の活動、情報発信、新しいコミュニティをつくる

福島大学

「行政政策学類」・「経済経営学類」・「災害復興研究所」

「うつくしまふくしま未来支援センター」

避難を余儀なくされた町や村の「地域づくり」に深く関わってきた福島大学の教授がプロジェクトを進めています。

～協力団体：「NPO ほうらい」「福島南部地域住民活動連絡協議会」～

震災以前から葛尾村と地域間交流事業を続けてきた「NPO ほうらい」さん。震災後は飯館村の仮設住宅の人たちが無料で利用できるバス・「くるりんバス」を走らせ、避難者の「生活の足」になっています。また、3.11の災害支援物資の調達・配送などに力を尽くしてくれた大学周辺の地元住民の方たち「福島南部地域住民活動連絡協議会」とも連携します。

～プロジェクトメンバーの1人は動き出した

「かーちゃん」です～

飯館村で元農業高校教諭・菅野元一先生が30年もかけて品種改良・開発してできた飯館村オリジナル品種「いいたて雪っ娘」(かぼちゃ)と「イータテベイク」(じゃがいも)。研究会の一人である「かーちゃん」は、「あきらめたくない」と避難先の福島市で田んぼを借りて畑に耕し、種をまきました。慣れない土地で必死に育て、どうにか無事に収穫し避難先の地元の方と収穫祭を開くことができました。

「一人では出来ないこともみんなであれば未来につなげる」

飯館村・渡邊とみ子 「までい工房美彩恋人」

「プロジェクト」応援隊

避難先の地元の女性や二本松に避難している小高の女性が、野菜づくりも加工もしたことないけど、「自分に出来ること」で協力したいとプロジェクトを応援してくれることになりました。

「かーちゃんのカ・プロジェクト」ロゴ



元気いっぱいのかーちゃんが大声で笑っている口のなかに文字を配置
安心感・力強さ・包容力を感じさせ、プロジェクトの目的である「つなげる」
「発信」を楽しく・力強く・笑いながら、進めていこうというイメージです。

「かーちゃんのカ・プロジェクト」シール

安心安全なものを届けたいというかーちゃんたちの願いから、
放射性物質検査を実施。プロジェクト独自の安全基準をつくり
「かーちゃんのカ・プロジェクト」のロゴ入りのシールを貼り販売します。

連絡先

福島大学小規模自治体研究所「かーちゃんのカ・プロジェクト」
事務所・コミュニティ茶ロン「あぶくま茶屋」
住所：福島市松川町金沢字舟場 3-27
電話：024-567-7273
携帯：090-2849-2439（渡邊）090-2790-0049（五十嵐）

ゆい

結もち・プロジェクト



あぶくま地域から避難してきた「かーちゃん」がふるさとの味のつきたて餅を
皆さんにふるまい、力をあせてつくった「結もち」(切り餅)の販売をします。

ゆい 結もち

年の瀬には「お正月餅」をついていたあぶくま地域の女性農業者・「かーちゃん」。
避難先では無理だとあきらめていました。
でも、「一人で出来ないことも、みんなとつながれば、未来につなげる」
ふるさとの味をみなさんに食べてもらって元気になってもらいたい。
動き始めた「かーちゃん」たちに、新潟県南魚沼市石打地区の農家のみなさんから
中越地震の際に支援していただいたお礼として、餅米、豆が送られてきました。
人と人・地域と地域を結ぶ「結もち」です。

～ イベント内容 ～

ふるまい餅
杵と臼でついた
つきたてもちをふるまいます。
* さい餅
* じゅうねん餅

ゆい
「結もち」の販売
(切りもち販売)
* 豆餅 * 白餅
* かぼちゃ餅

「正月餅」の
注文受付

正月餅の注文
受け付けます

かーちゃんの農産加工品販売

飯舘・浪江の
かーちゃんたちが作った
野菜や漬物・お菓子の販売

放射性物質検査

「かーちゃんのカ・プロジェクト」では安心安全なものを届けたい
という「かーちゃん」たちの願いから放射性物質検査を独自に実施。
当日は検査結果を表示するとともに「かーちゃんのカ・プロジェク
ト」シールを貼って販売いたします。

開催場所・時間

12月17日(土)、18日(日)
2日間にわたって3か所で開催

～ふるまい餅は各会場とも 限定200食
切り餅も売り切れ次第終了～

12/17.18 両日

AM11:00 ~ PM2:00

「あぶくま茶屋」

医大から立子山へ向かう道沿い
上蓬莱橋近く

- ♥ 「あぶくま茶屋」では
南部地域住民活動連絡協議会の
地元農産物の販売もします。
- ♥ 石打地区から餅つき応援団が
かけつけます(17日)
- ♥ 「三味線大道芸きでこ座」(17,18日)
猪股淳行・潮 親子出演
飯館のかーちゃんが
松川の皆さんと力を合わせます。

問い合わせ

主催：福島大学小規模自治体研究所
「かーちゃんのカ・プロジェクト」

事務所・コミュニティ茶ロン
「あぶくま茶屋」

住所：松川町金沢字舟場 3-27

電話：024-567-7273

渡邊 090-2849-2439

五十嵐 090-2790-0049

12/17

AM11:00 ~ PM2:00

「安達運動場仮設住宅」

合同企画

福島大学学生もイベント企画中

浪江・小高・二本松の

かーちゃんが力をあわせます。

12/18

AM11:00 ~ PM2:00

「三春町・貝山仮設住宅」

- ♥ 「かーちゃん」たちが作った
漬物や野菜、お菓子なども販売
- ♥ 午後2時からは、講演会「チェルノ
ブイリとフクシマ 葛尾村の再生に
向けて」(小山良太経済経営学類准
教授)を開催します。
葛尾のかーちゃんががんばります。

****協力団体・サポーター****

福島大学(うつくしまふくしま未来支援センター・
経営経済学類・災害復興研究所)

NPO ほうらい 地元・松川のみなさん

福島市南部地域住民活動連絡協議会

福島市南部地域における震災復興活動

「第2回住民活動交流会」開催のご案内

福島市の南部に位置する松川、金谷川、水原、蓬莱、立子山などの地区では、住民自身による「まちづくり活動」が積極的に展開されています。社会の高齢化が進み、コミュニティや家族が弱体化する中で暮らしのあり方を問い直す人々が増えていることの表れだと思われま

す。また、今年、3・11東日本大震災、津波、福島第一原発事故、風評といった未曾有の災害を受けており、それぞれの地域や団体においては、避難者支援や震災復興に向けた様々な取り組みが展開されています。

昨年の12月4日(土)に開催した第1回住民活動交流会では、南部地域のまちづくり活動に取り組んでいる多くの皆さんと意見交換を行いました。

昨年に引き続き、第2回住民活動交流会を下記により開催しますので、ふるってご参加くださるよう、ご案内いたします。

第2回交流会では、2団体から震災復興活動の取り組みを報告していただきます。

記

日時：平成23年12月18日(日) 9:30～10:30

場所：「あぶくま茶屋」(福島市松川町金沢字舟場 3-27)

報告：ベラルーシ・ウクライナ福島調査団参加者報告

報告者：福島大学 清水修二副学長

「ひまわりプロジェクト」活動報告

報告者：ひまわりプロジェクト代表

参加：蓬莱、松川、水原、金谷川、立子山地区の住民団体
及び個人、福島大学

主催 福島大学

(事務局 福島大学地域連携課 024-548-8084)

